

エコニュース さって



第 8 7 号
令和 4 年 9 月 29 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

「エコライフDAY宣言式」の開催

報告：坂本

令和 4 年 5 月 23 日（月）、幸手市役所応接室にて、「エコライフ DAY 宣言式」が行われました。参集したのは木村純夫幸手市長、さって市民環境ネットのメンバーと環境課の職員です。

エコライフ DAY は、埼玉県が主体となって進め、県民みんなで環境のことを考えて行動する日のことです。県のホームページにあるエコライフ DAY チェックシートを使い、省エネ、省資源の生活を体験する 1 日です。実施の期間は、令和 4 年 7 月 1 日から 9 月 30 日までです。

対象者は、次のとおりです。①市内小中高生、その家族及び教職員。②事業所、各種団体の職員。③一般市民。④市役所職員。

木村市長からは、「今年もこの事業を通して、少しでも多くの方々に地球温暖化に対する危機感を持っていただき、温室効果ガス削減のために取り組んでいただけるよう切に願います。幸手市一丸となってエコライフ DAY を推進してまいりましょう。そして、今年度の二酸化炭素削減目標を一人当たり 872g とする。みなさん、地球環境のために、私たちの生活を見直す 1 日としましょう。是非、エコライフ DAY にご参加ください。」というコメントをいただきました。



市長が持っているのは、「STOP 温暖化」のパンフレット、
環境ネット会長の持っているのはハウネンエビの入った水槽

幸手小学校環境学習

植物班報告： 藤城

日時；令和 4 年 5 月 26 日（木）10 時 20 分～12 時 10 分

テーマ；「身近な植物」を観察しよう

幸手小学校の総合的な学習の時間の“自然の中で学ぼう”に参加しました。環境学習は、4 年生 42 名が参加し、滝田先生、久保田代表、校長先生のお話の後、2 班に分かれ、順番を分け、それぞれ植物とハウネンエビについて学習した。

澤村、坂本、それに藤城の 3 人が身近な植物の観察を担当。今回は 4 年生の皆さんが、校庭に生えている植物の中から“これを観たい！”という物をいくつか選んで観察するという初の試みです。

判らなかつたらどうしようという心配が当たりました。タブレットの写真を見せてもらってもさっぱり判らず、生えていた場所に案内してもらい実物を採ってきて調べました。



植物の葉を顕微鏡で調べる子供たち

タンポポとオオイヌノフグリは知っていましたが、他の 2 点は図鑑と首っ引きです。

やっとハルジオンかヒメジオンのどちらかとニワゼキショウであることが判明。

どちらも地味な感じがしますがおもしろいものを採ってきたなと思いました。

いつも私達が用意した目立つ花や葉ものでなく、本当に何なのかを知りたい思いが伝わりました。

4 台の双眼実体顕微鏡で自分達が見つけた植物を見るのは初めての体験です。

“こんな色が花の中にある”拡大して初めて見えた色や形は面白かった様です。いつものヘビイチゴも大人気。“すご〜い、ツブツブが立っている”。“つやつや光っておいしそう”と何度も見に来たり。その中で印象に残ったのは、一人の男子児童が“これはじっくり見るべきですね！”と言った事です。本当にその通り、私達ももっとゆっくり見せてあげられたら良いなと感じていました。

百均の虫メガネでも良く観察できますが、もっとよく見たい、深く知りたい時に、すぐにみられる所に顕微鏡があったらいいなと思いました。

今回はカントウタンポポとセイヨウタンポポを較べて違うところを見たり、ハルジオンの茎は空洞で柔らか。ヒメジオンは白い芯で固いなど、似ているけれどちょっと違うところも分かりましたが、覚えられたかな？ 4年生はタブレットの使いこなして“私達よりも進んでいる”と感じました。タブレットが顕微鏡の役割を果たせる時代でしょうか。今回は植物の方に顕微鏡を4台でしたが、1台に1人ついていないとうまくできない事を実感しました。



生態系ピラミッドの説明を受ける子供たち

唐澤さんに事情があって参加できなかったのは本当に残念。大人のちょっとしたひと言を添える事もヒントになり大事だと感じました。今回は図鑑を調べる作業が加わったことで、私達もよりいっそう共に学ばせてもらったと感じた2時間の授業体験でした。

ハウネンエビ班報告： 福田



ハウネンエビに興味を示す子供たち

日時；令和4年5月26日（木）
10時20分～12時10分
テーマ；「身近な環境の生き物を調べよう」田んぼの妖精を観察しよう

ハウネンエビ班は、久保田、八木、福田が担当した。前日、千塚地区の田んぼから採取したハウネンエビと東3地区の田んぼから採取した約150匹を教材（採取の協力者は澤村、小谷、坂本）とした。

学習のポイントとしては、ハウネンエビの泳ぎ方、オス・メスの相違

点や特徴等について、ミルソーや水槽で観察した。ルーペや顕微鏡は、主に卵の状態を観察し、多くの児童はしっかりと記録していた。乾燥土壌中の小さな卵は、顕微鏡でのピント合わせが難しく、皆に見せることが出来なかったのは少し残念であった。



ハウネンエビの動きを観察する生徒

ハウネンエビ、ミジンコ、アメンボ、お玉じゃくし等が混在する水槽では、児童が見たり手で触ったり掴んだりして感触を楽しんでいた。

特に触る事が未体験なのか楽しそうで、結構、はしゃいでいる児童もいた。

タブレットを用いて写真を撮影する児童がいたり、説明するスタッフ側にも、事前に調べたスマートフォンの動画を用いたりして、この環境学習で、スタッフも児童も楽しい時間を過ごせたのではないだろうか。

学習のまとめとして、NHK 制作のビデオ（豊作を招くハウネンエビ）を見た。その後に、一部の児童による学習発表があった。①オス・メスの相違や触った感じを上手に発表された。

最後に校長先生が、発表者を含む児童全員の生物への観察力をほめ、これを機会にもっと環境学習への探求心を持って欲しいと総括された。

知識欲旺盛で元気な児童との触れ合いは、満足した一日であった。

「エコニュースさって」にアクセスする方法

- ・ [「https://bit.ly/ecoNEWS」](https://bit.ly/ecoNEWS) を入力してください。
- ・ 右の QR コードを読み取ってもアクセスできます。



【会員募集中！】環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問合わせ先；久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園20期）